

保健体育研究部会

I 研究テーマ

健やかな体の育成に向けた体育学習の在り方

II 研究テーマ設定の理由

保健体育科は、心と体を一体としてとらえ、運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通して、積極的に運動に親しむ資質や能力を育てるとともに、健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てることをねらいとしている。

現在、体育における児童生徒の学習の課題は、運動への関心や自ら運動する意欲、各種の運動の楽しさや喜びを味わえるよう自ら考えたり工夫したりする力、その基礎となる運動の技能や知識など、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の育成が十分に図られていないこと。また、運動をする子どもとそうでない子どもの二極化への指摘があるとともに、子どもの体力の低下傾向が依然深刻な問題となっていること。さらには、学習経験のないまま領域を選択しているのではないかの指摘があることなどがあげられる。こうしたことを踏まえ、新しい流れの中では、指導内容を整理し体系化を図ることが必然的に求められてくる。

本研究部会は、毎年よりよい体育授業の創造と適切な評価活動のあり方を模索し、多くの成果をあげている。例えば、各校の実践を持ち寄って、現場での悩みや課題を互いに共有したり、公開研究や実践発表などで意見交換を行ったりして授業改善に結び付けてきた。長年、「選択制授業」の研究を機軸に様々な方法やねらいで授業実践を推進してきたが、近年は、運動技能を高めることに主眼を置き、実践研究を行っている。「確実な技能の獲得」をねらい、3年間で何を教えるのかをおさえ、学習内容の検討を図った本研究は、学習内容を明確にし、それらをより確かに習得させることを基本方針とした、改訂学習指導要領の趣旨をしっかりととらえていたといえよう。

そもそも体育は、すべての子どもたちが、生涯にわたって運動やスポーツに親しむのに必要な素養と健康・安全に生きていくのに必要な身体能力、知識などを身に付けることをねらいとするものである。こういった観点から、体育においては、「身体能力」「態度」「知識、思考・判断」を身に付けさせ、一定の「経験」をさせることが必要となる。生涯にわたって運動に親しむ資質や能力は、発達段階に応じた学習を通して適切に定着させることが大切で、すべての子どもたちが、多くのスポーツに共通した要素をもつ運動種目や広く普及している運動種目を通して、生涯にわたって運動やスポーツに親しむための基礎となる「技能」を習得することが求められる。このことが、本研究テーマである子

どもたちの「健やかな体の育成」につながるのである。

したがって、本研究会では、日々の授業にすぐに生かせ、基礎的・基本的な運動技能が確実に身につく指導方法を運動領域ごとに幅広く研究し、部員全員が共有したいと考える。昨年度は、球技の「ネット型」の種目について、理論研究や授業実践をベースにしながらも、随所に実技講習を取り入れ、教材の組み立てや指導のポイントを確認したり、習熟度に応じた教材開発に努めたりもした。特に実技講習では、改めて運動技術の理解や指導方法などを学ぶことができた。このことにより、日々の授業実践に大いに役立ったと同時に、つまづいている生徒への工夫した指導など、指導方法の引き出しが増えたことが成果としてあげられる。一方で、球技領域において、学年の発達段階や生徒の実態等に応じた年間計画への位置づけ、単元計画や単位時間計画の作成など、次年度への課題も確認された。

そこで、本年度は、昨年度からの継続による「ネット型」の指導の充実を目指し、「ネット型」の単元計画や単位時間の学習指導案を作成し、授業実践によりその効果や有効性の検証に努めたい。また、球技全体の3年間を見通した年間指導計画への位置づけを検討し、技能習得のための指導方法の工夫などについて研究を深めたい。生徒全員が運動の特性に触れ、夢中になって取り組む体育学習の豊かな実践研究を通して、研究主題に迫りたいと考える。

Ⅲ 研究の経過と内容

1. 研究仮説

「ネット型」において、運動の特性に基づき、実態に応じ、工夫された学習内容の配列と躰きに応じた指導計画を作成し、熱意を持って指導すれば、確かな技能が身につくであろう。

2. 研究計画

5月14日(火)	城南中・大里小	今年度の研究内容の検討
6月18日(火)	南中	研究授業 「バレーボール」
7月31日(火)	笛南中	領域毎に指導案検討・単元計画作成
8月16日(金)	笛南中	領域毎に指導案検討・単元計画作成
9月3日(火)	笛南中	領域毎に指導案検討・単元計画作成
10月1日(火)	笛南中	県教研資料の検討
11月5日(火)	笛南中	実技講習 「ケガの予防と処置について」
1月21日(火)	笛南中	研究のまとめと本年度の反省と来年度への課題の確認

3. 研究内容

一昨年度より、球技「ネット型」のバレーボール・バドミントン・卓球の3種目において、日々の授業にすぐに生かせ、基礎的・基本的な運動技能が確実に身につく指導方法を運動領域ごとに幅広く研究し、部員全員で共有してきた。

本年度は、まとめの年として、昨年度からの課題となっていた学年の発達段階や生徒の実態等に応じた単元計画と単位時間の学習指導案（略案）を作成した。この指導案（略案）作成には、昨年度までに研究した教材及び指導方法を各校で実践した結果や、6月に「バレーボール」の授業実践を全員で観察し、事後研究会で検証した結果などを生かして作成した。

まず、それぞれの種目毎に、12時間の単元計画及び指導と評価の計画を1枚の紙面にまとめ、見やすいような様式を検討し、3種目で統一し作成にあたった。作成にあたって留意したことは、誰がどの種目を担当し、いつ指導することになっても困惑しないようにポイントを絞ったことである。また、各校の実態に応じた指導や、躓いている生徒それぞれに対応できるように、具体的な事例を多数組み込むようにした。さらに、その指導計画の中のある1時間を指導略案として示し、すぐに授業できるようにさくせいした。

IV 研究の反省と課題

今年度は、一昨年度から始めた研究のまとめの年として、球技「ネット型」のバレーボール・卓球・バドミンントンの3種目について、単元計画や単位時間の学習指導案（略案）の作成を行った。作成にあたっては、昨年度の研究会で工夫したり、検討したりした指導内容や指導方法を各校に持ち帰り、授業において実践し、生徒にどう生かされたかを検証したり、各先生方の豊富な経験を参考にしたりした。また、6月に南中学校で実施したバレーボールの研究授業の成果も資料作成に生かすことができた。このことにより、内容の濃い計画や指導略案に仕上げることができた。

具体的には、種目毎に12時間の単元計画と、一昨年度より研究してきた教材を使った学習指導案（略案）の作成を行った。単元計画では、3種目（バレーボール・バドミントン・卓球）共通の12時間を見通した指導の流れを確認し、内容と学習活動だけではなく、学習活動における具体の評価規準も盛り込み1枚にまとめて見やすく、使いやすいものにするのを心がけた。球技「ネット型」授業において、どの種目を指導することになっても、この単元計画を見れば、概ねの授業の流れがイメージできるようにした。

本年度は、球技「ネット型」授業の指導の充実を目指した研究のまとめをすることができた。この3年間を通して、次のような成果があった。



1年目…授業の土台となる教材を数多く研究し共有した。

2年目…1年目に研究した教材や指導内容・指導方法を、教師自らが身をもって体験し指導に生かすことができた。

3年目…2年間で研究した教材を使った指導内容や指導方法を実践・検証し、指導画及び学習指導案（略案）を作成し共有した。

課題としては、今年度作成した指導計画や学習指導案（略案）をさらに授業実践を積み重ねることで研究を深め見直していく必要があること、また、実践にあたっては各校の実態に合った独自性を出すこと、そして、それぞれの種目について単元計画に沿った12時間分の学習指導案（略案）を作ることなどが挙げられた。今回作成した指導計画や学習指導案（略案）を実際に来年度の授業の中で実践し、付け加えたり、修正したりしながら甲教協の場で持ち寄り、より高い質の指導計画と学習指導案（略案）にしていく必要がある。このことは、県教研で講師の先生方にも助言として頂いた。

来年度以降は、新たな研究の年のスタートとして、2年計画で球技「ゴール型」と「ベースボール型」の指導計画と学習指導案（略案）を作成し、球技の単元のまとめとしたい。また、他の単元にも、この3年間の経験と残された課題を生かして研究を広げ、単元計画や学習指導案（略案）を作成し、共有し、研究をすすめたい。